

令和6年度 学校評価中間報告

1 達成目標及び検証

教職員アンケート・生徒アンケート・保護者アンケートの各項目で、肯定的な回答（1+2）の合計85%以上を目指す

2 回答の選択項目

	教職員	保護者	生徒
1	よく当てはまる	よく当てはまる	当てはまる
2	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまる
3	どちらかといえば、当てはまらない	どちらかといえば、当てはまらない	どちらかといえば、当てはまらない
4	ほとんど当てはまらない	ほとんど当てはまらない	当てはまらない

3 評価基準

肯定的な回答（1+2）の割合による評価の基準

- A：85%以上～100%（継続）
- B：70%以上～85%未満（継続・改善）
- C：50%以上～70%未満（要改善）
- D：50%未満（至急対策検討）

令和6年度 能登町立能都中学校 学校評価目標

能登町立能都中学校 学校経営方針 キーワード 「命」「学び」「目標」

学習指導要領 豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることのできる資質・能力の育成	教育目標 より良い人間関係を築き、 創造性豊かにたくましく前 に進もうとする生徒の育成	能登町教育理念 「能登」の地と人に学び未来を拓くたくましい力をはぐみ一歩前へ進む人づくり
--	--	--

つきたい力	(1) 一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力 (2) 疑問を持ち、考え抜く力 (3) 多様な人々とともに、目標に向けて協力する力
--------------	---

学校経営ビジョン	判定指標
(1) 子どもたちが安全・安心に学べる学校	
①学校教育全体を通して、生徒自ら危険を察知・回避する力を育成する。 ・地震の体験を元に、安全確保について生徒同士が話し合う機会を設定する。 ②生徒の変化を敏感に把握し、いじめ等を見逃さない。 ・毎朝、対面で声かけを行い、個々の生徒の様子を把握する。 ③教職員の危機管理意識を磨き、実効性のある仕組みへと常に見直す。 ・安全・安心な教育環境の構築のため。現状に即した訓練実施やマニュアルの見直しを行う。	(教職員アンケート) ① ③ ④ ⑤ ⑥ (生徒アンケート) B3 B4 (保護者アンケート) ① ② ③ ④ ⑤
(2) 生徒の確かな学びを保障する学校	
①生徒一人一台端末を積極的に活用し、GIGAスクール構想の実現に努める。 ・積極的な授業実践と研修に取り組み、効果的な活用方法を模索する。 ②主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を推進する。 ・学ぶことの楽しさを体得できる学習活動を工夫する。 ・生きて働く知識・技能の習得を確かなものにする。 ・生徒の様子、変容を視点とした、研究授業を実施する。 ③体験活動や総合的な学習の時間を活用して、教科等横断的な学びを推進する。 ・地域の資源を生かした、海洋教育の工夫改善に取り組む。	(教職員アンケート) ② ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰ (生徒アンケート) A1 A2 A3 A4 A5 A6 A7 B5 B6 B7 B9 (保護者アンケート) ⑥ ⑨ ⑩ ⑪ ⑭ ⑮
(3) 教師の資質・能力向上への意識が高い学校	
①ワークライフバランスを向上させ、子どもと向き合う時間の確保に努める。 ・校務支援システムを活用して業務の効率化を推進し、遅くとも午後8時までに退校する。 ②人権感覚を高め、指導力を高める研修を推進する。 ・学校生活の中での教師や生徒の言葉遣いに注意を払い、適切な言語環境を整える。 ③日常的に共通理解やコミュニケーションを図る職場づくりを進める。 ・報告・協議事項は事前に起案し、校務支援システム等で周知する。	(教職員アンケート) ⑯ ⑰ ⑱ ⑳ ㉑ (生徒アンケート) B1 B2 (保護者アンケート) ④ ⑤ ⑥
(4) 地域社会の一員として信頼される学校	
①学校公開や日々の教育活動についての情報発信を積極的に進める。 ・週1回以上、学校HPを更新する。 ②学校評価は焦点化した評価項目に絞り、改善の方向や方策を提示し公開する。 ・学校評価結果を学校HPで公開し、改善の為の具体的な取組を推進する。 ③地域人材や施設を積極的に活用し、ふるさと教育の推進と郷土愛の醸成を図る。 ・各学年2回以上、地域人材を活用した授業を実施する。	(教職員アンケート) ⑦ ㉒ ㉓ (生徒アンケート) B10 (保護者アンケート) ⑫ ⑬

(1) 子どもたちが安全・安心に学べる学校						
①学校教育全体を通して、生徒自ら危険を察知・回避する力を育成する。 ・地震の体験を元に、安全確保について生徒同士が話し合う機会を設定する。						
②生徒の変化を敏感に把握し、いじめ等を見逃さない。 ・毎朝、対面で声かけを行い、個々の生徒の様子を把握する。						
③教職員の危機管理意識を磨き、実効性のある仕組みへと常に見直す。 ・安全・安心な教育環境の構築のため。現状に即した訓練実施やマニュアルの見直しを行う。						
		質問内容	判定		R5 中間	
教 員	①	学校教育目標を達成するための教育活動を実践している。	A	100.0%	A	92.3%
	③	生徒の様子の小さな変化にも気付くように意識している。	A	100.0%	A	92.3%
	④	各種アンケートをもとに、人間関係づくりに取り組んでいる。	A	100.0%	A	92.3%
	⑤	危機管理意識を持って教育活動を行っている。	A	100.0%	A	92.3%
	⑥	生徒自らが危険を察知・回避する力を育成している。	B	84.6%	B	84.6%
生 徒	B3	学校へ行くのは楽しいと思う。	A	86.4%	B	79.8%
	B4	いじめはどんな理由があってもいけないと思う。	A	94.3%	A	96.5%
保 護 者	①	お子さんは、学校へ行くのが楽しそうだ。	A	93.2%	B	83.5%
	②	学校は、生徒の安全を守るために努力している。	A	95.9%	A	96.2%
	③	学校は、いじめや問題行動の未然防止・早期発見に努めている。	A	91.8%	A	88.6%
	④	学校は、何事に対しても誠実に対応している。	A	94.5%	A	91.1%
	⑤	教職員は、生徒の気持ちや内面を理解しようとしている。	A	90.4%	A	91.1%
判定基準	A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)					

【考察・改善】

- ◎震災後の生徒の心のケアに細心の注意を払い、生徒の話をじっくり聴くようにしている。生徒の小さな変化を見逃さないようにアンテナを高くして、気になることは教職員で共有し、対応を共通理解するようにしている。
- 本校のスクールカウンセラーに加え、文部科学省からの派遣スクールカウンセラーを活用して、生徒の全員面談を実施した。継続的に支援が必要な生徒には面談を数回行った。また、法務局の方を講師としての「アンガーマネジメント」、派遣スクールカウンセラーを講師としての「こころのサポート授業」を全クラスで実施した。
- 「学校が楽しい」という生徒が昨年度より増加している。全ての生徒が楽しいと感じられるように、毎日の教育活動や学校行事等の機会を生かして、居場所づくりや絆づくりの取組をさらに進める必要がある。
- △教職員の指示がなくても安全に避難できる力を少しでも高めたいという意図で、本年度は地震想定避難訓練を休み時間に実施した。地震に限らず、生徒一人一人が自分事として危険を捉え、どう行動すべきかを考え自己決定する力をさらに高める必要がある。
- △アンケートや本人・保護者からの話などから、いじめの積極的認知を行っている。学校として、関係生徒・保護者との面談・連絡を取り合い現状の共通理解に努め対応している。普段の学校生活全体を通して、生徒たちの人権意識を高め言語環境を整える取組を進める必要がある。

(参考 いじめ認知件数 10件 不登校生徒数 4人)

【アンガーマネジメント授業】



【こころのサポート授業】



【地震想定避難訓練】



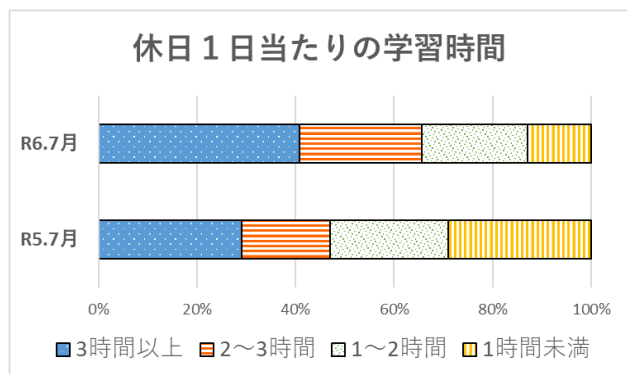
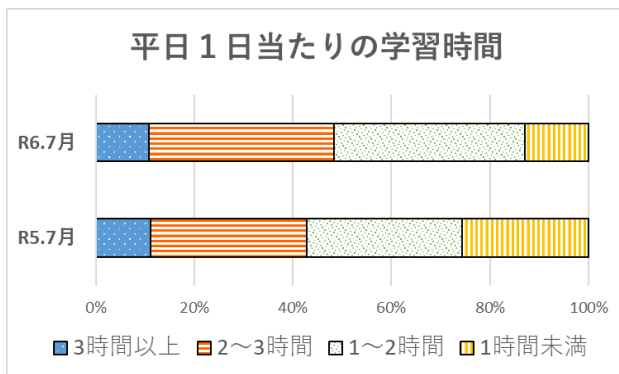
(2) 生徒の確かな学びを保障する学校

- ①生徒一人一台端末を積極的に活用し、GIGAスクール構想の実現に努める。
 ・積極的な授業実践と研修に取り組み、効果的な活用方法を模索する。
- ②主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を推進する。
 ・学ぶことの楽しさを体得できる学習活動を工夫する。
 ・生きて働く知識・技能の習得を確かなものにする。
 ・生徒の様子、変容を視点とした、研究授業を実施する。
- ③体験活動や総合的な学習の時間を活用して、教科等横断的な学びを推進する。
 ・地域の資源を生かした、海洋教育の工夫改善に取り組む。

		質問内容	判定		R5 中間	
教職員	②	学校生活において生徒に目標を持たせ、その目標を達成するための具体的な働きかけを行っている。	A	100.0%	A	100.0%
	⑧	各種学力調査の分析を生かし、学習指導の工夫・改善に努めている。	A	100.0%	B	75.0%
	⑨	授業で、思考を伴うアウトプットができる場を設定している。	A	100.0%	A	100.0%
	⑩	授業で、生徒は思考を伴うアウトプットをしている。	A	92.3%	A	100.0%
	⑪	主体的、対話的で深い学びが実現されている。	B	84.6%	B	75.0%
	⑫	自然や日常生活、社会との関わりを意識した学習内容も取り入れている。	A	100.0%	A	91.7%
	⑬	指導者として意図をもって、授業で一人一台端末を活用している。	A	92.3%	A	91.7%
	⑭	体験学習・総合的な学習の時間で、教科等横断的な学びを関連づけている。	B	75.0%	B	83.3%
	⑮	授業の約束4か条を意識し、指導している。	A	92.3%	A	100.0%
	⑰	生徒の家庭学習の状況を把握し、学習時間が増えるように繰り返し指導している。	B	84.6%	C	66.7%
生徒	A1	授業では、課題に対して、自分で考え、自分から取り組んでいると思う。	A	89.8%	A	89.5%
	A2	授業では、ペアや全体に対して伝えたり、発表したりする場面がある。	A	86.4%	A	90.4%
	A3	授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う。	A	89.8%	A	95.6%
	A4	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聴くことができていると思う。	A	97.7%	A	98.2%
	A5	授業では、自分の考えを他の人に伝えたり、書いたりすることができていると思う。	A	86.4%	A	86.0%
	A6	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	A	87.5%	A	88.6%
	A7	学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。	A	97.7%	A	96.5%
	B5	家の人と学校の出来事や将来のことについて話をする。	B	79.5%	B	76.3%
保護者	B6	携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について家の人と約束したことを守っている。	C	69.3%	B	83.3%
	⑥	授業はわかりやすいと言っている。	B	72.6%	B	73.4%
	⑨	お子さんは、携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について家の人と約束したことを守っている。	C	57.5%	C	55.2%
	⑩	家庭では、テスト10日前から、9時以降、3ノ一（ノーテレビ、ノーゲーム、ノーSNS）に取り組んでいる。	D	43.8%	D	46.8%
	⑪	家庭では、学校の話などの会話をよくしている。	B	71.2%	B	77.2%
判定基準	A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)					

家庭学習		30分以内	30分~1時間	1~2時間	2時間以上
生徒 B7	平日に1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。	17.0% (29.8%)	37.5% (34.2%)	38.6% (26.3%)	6.8% (9.6%)
保護者 ⑭	お子さんは、平日に1日あたりどれくらいの時間家庭学習をしていますか。	23.3% (30.4%)	42.5% (46.8%)	30.1% (20.3%)	4.1% (2.5%)
テレビ、ゲーム、インターネット（SNS、動画視聴等）		1時間以内	1~2時間	2~4時間	4時間以上
生徒 B9	平日に1日あたりどれくらいの時間、テレビやゲーム、インターネットをしますか。	10.2% (10.5%)	23.9% (24.6%)	43.2% (34.2%)	22.7% (30.7%)
保護者 ⑮	お子さんは、平日に1日あたりどれくらいの時間、テレビやゲーム、インターネットをしますか。	9.5% (17.8%)	45.2% (35.4%)	42.4% (35.4%)	2.7% (11.4%)

【生徒の定期テスト前の学習時間調査結果(ファイト表より)】



【考察・改善】

○昨年度に引き続き、授業での生徒のアウトプットに重点を置き共通実践している。指導者がアウトプットの意図を明確にもち、授業のねらい達成につながる思考を伴ったアウトプットを目指して授業改善に取り組んでいる。

○各種学力調査の分析を生かしたり、自然や日常生活、社会との関わりを意識したりする教師の意識は高まっていて、授業に取り入れている。この意識の高まりを教科等横断的な学びへとつなげるものにする必要がある。

△学力調査の結果から本校の平均点は県の平均点に届いていない。授業での共通実践が「学ぶことの楽しさを体得できる授業」「生徒が分かる授業」「主体的・対話的で深い学びの実現」となるようにし、生徒の資質・能力の育成につなげていかななくてはならない。

△平日の家庭学習の量については改善傾向が見られ、定期テスト前の家庭学習時間も昨年度よりは増加しているが、引き続き課題である。家庭学習時間とテスト結果の関係を表したグラフや家庭学習に関する先生のコメントを掲示している。生徒自身が家庭学習の必要性を感じることができるようしていく必要がある。

△家庭学習の習慣化への課題は、インターネット等の利用時間が多いことと関係が深い。平日の利用時間が4時間を超える生徒は昨年度より減少したが2時間以上の生徒が増加している。さらに、それらの使い方について家の人と約束したことを守っていない生徒も多く、テスト前でも使用している。デジタルシチズンシップ教育を推進し、自ら考え判断し行動する力、自己指導能力を育成していかなければならない。

【家庭学習時間とテスト結果】



【公開授業研究会】



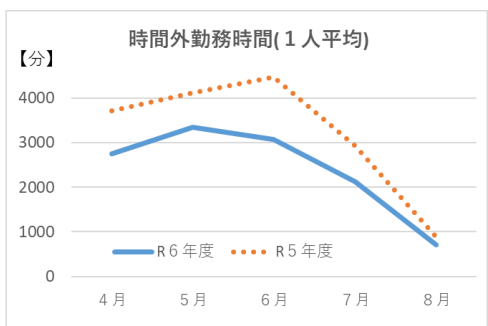
(3) 教師の資質・能力向上への意識が高い学校

- ①ワークライフバランスを向上させ、子どもと向き合う時間の確保に努める。
 - ・校務支援システムを活用して業務の効率化を推進し、遅くとも午後8時までに退校する。
- ②人権感覚を高め、指導力を高める研修を推進する。
 - ・学校生活の中での教師や生徒の言葉遣いに注意を払い、適切な言語環境を整える。
- ③日常的に共通理解やコミュニケーションを図る職場づくりを進める。
 - ・報告・協議事項は事前に起案し、校務支援システム等で周知する。

		質問内容	判定		R 5 中間	
教職員	⑯	校内研修は指導法の工夫・改善等に役立っている。	A	100.0%	A	91.7%
	⑰	学校生活の中で言葉遣いに注意を払い、適切な言語環境を整えている。	A	100.0%	A	100.0%
	⑱	日々の業務の効率化を意識し、遅くとも午後8時には退校している。	A	92.3%	B	84.6%
	⑳	日常的に共通理解やコミュニケーションを図るようにしている。	A	100.0%	B	84.6%
	㉑	報告・協議事項は、全員に周知されている。	A	100.0%	B	84.6%
生徒	B1	自分にはよいところがあると思う。	B	78.4%	B	78.9%
生徒	B2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。	A	92.0%	A	87.7%
保護者	④	学校は、何事に対しても誠実に対応している。	A	94.5%	A	91.1%
	⑤	教職員は、生徒の気持ちや内面を理解しようとしている。	A	90.4%	A	91.1%
	⑥	授業はわかりやすいと言っている。	B	72.6%	B	73.4%
判定基準	A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)					

【考察・改善】

- 校内研修会、公開授業研究会を計画的に実施し、指導の工夫・改善につながるようにしている。共通実践の質の向上を目指して、授業研究会の整理会において改善策を協議している。若手教員早期育成プログラムでは、若手教員がテーマに即した発表を行い、その内容について協議している。
- 昨年度より業務の効率化、退校時刻への意識が高まり、時間外勤務時間の平均は少なくなっている。校内掲示板等を活用して情報の共有を行っている。また、退校時一人だけを残さないように声掛けし一緒に退校するようにしている。今後も業務の効率化を進め、20時までに退校するように取り組んでいく。



△生徒一人一人が活躍する場を確保できるように、日々の学校生活、授業や行事などで意識的に取り組んでいる。しかし、「自分にはよいところがあると思う」という問いに対する肯定的な回答は増えていない。教師が個々の生徒への理解を深め、一人一人に応じた認める声かけを多くするだけでなく、生徒同士が認め合う場を充実させることで、自己肯定感を高めるようにしていく必要がある。また、人権感覚を高くして言語環境を整えていくことで、適切な言葉遣いへの生徒の意識を高めていかなければならない。

【校内研修会】



(4) 地域社会の一員として信頼される学校

- ①学校公開や日々の教育活動についての情報発信を積極的に進める。
 - ・週1回以上、学校HPを更新する。
- ②学校評価は焦点化した評価項目に絞り、改善の方向や方策を提示し公開する。
 - ・学校評価結果を学校HPで公開し、改善の為の具体的な取組を推進する。
- ③地域人材や施設を積極的に活用し、ふるさと教育の推進と郷土愛の醸成を図る。
 - ・各学年2回以上、地域人材を活用した授業を実施する。

		質問内容	判定		R5 中間	
教職員	⑦	生徒は、学校生活を通して元気にあいさつや返事をしている。	B	84.6%	C	53.8%
	②②	地域の人材・教材を取り入れた授業を年2回以上実施(予定)している。	B	84.6%	C	69.2%
	②③	保護者・地域へ、積極的に情報発信を行っている。	A	92.3%	A	92.3%
生徒	B10	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。	B	75.0%	B	79.8%
保護者	⑫	教職員は、保護者との連携を密にしている。	B	84.9%	A	91.1%
	⑬	学校からの各種便りの発行やホームページの更新などは十分である。	A	87.7%	A	83.5%
判定基準		A(肯定回答85%以上)、B(70%以上)、C(50%以上)、D(50%未満)				

【考察・改善】

- 地域の人材・教材を取り入れた授業については、年々肯定的回答が増加している。震災後の町づくりに関する学習活動を総合的な学習の時間に実施し、役場へインタビューに出かけたり、漁師の方をゲストティーチャーとして学校に招いたりすることができた。また、震災復興のボランティアの方々の働きを含めて「働く意義」について考え、地域の事業所の方々の協力を得て、職場体験活動の実施もおこなった。今後、震災復興後の町づくりの担い手としての生徒の意識が高まるように、各教科等でも地域人材や教材を活用するとともに生徒の当事者意識を高めていかなければならない。
- △生徒のあいさつや返事については、昨年度より肯定的回答が多くなっているが、生徒間の個人差が大きい現状がある。今年度は、授業の4か条コンテストを生徒会の生活委員会が行い、期間中は意識の高まりが見られるものの継続が難しい現状もある。あいさつや返事の意義を生徒たち自身が考える場や一人一人が自己を振り返る場を設定し、元気にあいさつや返事ができるように根気良く取り組む必要がある。
- △生徒の気になる様子について保護者との連絡を密に行い、連携を図るようにしている。事実を伝えるとともに、学校としての指導・支援の方針を保護者に分かりやすく説明し協力を求めていく姿勢を大切にしていきたい。また、地域社会の一員として信頼される学校となるように、学校便り・ホームページを通して、日々の教育活動が伝わるような情報発信にさらに努めていく必要がある。

【能登町役場でのインタビュー活動】



【漁師の方のゲストティーチャー】



【職場体験活動】